

農業のために 地域のために 明日のために

# JA共済の 地域貢献活動

JA共済は、全国でさまざまな  
地域貢献活動を行っています。  
個々の活動が、未来に向けて  
地域や農業の大きな力となるように  
今後もこの活動に取り組んでまいります。



JA共済の地域貢献活動ホームページ  
「ちいきのきずな」でも  
さまざまな活動をご紹介します。



スマートフォンの方はこちらから！



# JA共済の 地域貢献活動

報告集 <近畿エリア版>

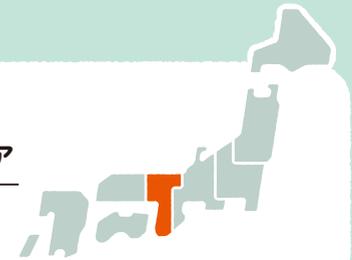




## 地域に根をはり、くらしを支える。

JA共済は農業のために、地域のために、明日のために、  
全国各地で地域の独自性を活かした地域貢献活動に取り組んでいます。  
組合員や地域の皆さまが、豊かに安心して暮らすことができるように、  
皆さまの声に耳を傾け、地域に寄り添います。

### 近畿エリア INDEX



- |   |      |     |
|---|------|-----|
| ① | 滋賀県  | P03 |
| ② | 京都府  | P05 |
| ③ | 大阪府  | P07 |
| ④ | 兵庫県  | P09 |
| ⑤ | 奈良県  | P11 |
| ⑥ | 和歌山県 | P13 |

# 滋賀県



1) 大津市 越市長(左)にブランド米「はなふじ」を寄贈  
2) 「はなふじ」米のパフレット

## 1 74の保育園に こだわりのブランド米を寄贈

JALレーク大津管内すべての保育園と認定保育園、認定こども園にブランド米「はなふじ」を15キロずつ寄贈しました。

「はなふじ」は、農薬の使用量を通常の半分に減らし、化学肥料を使用せずに育て、県の「環境こだわり農産物認証」を受けた地元の安全で安心なお米です。

「園児たちの300食分にもなって、ありがたいです」と喜びの声をいただきました。

## 2 笑顔が咲く地域の新しいスポット

食と農を基軸に交流、学習活動ができる施設「みのりハウス」\*の開設を支援しました。

11月に無水鍋の講習会、12月にこんにやく作りを開催しました。同月にはみそ加工の準備、1月より加工作業にも入りました。

いずれも女性を中心にたくさんの方に参加いただき、皆さん笑顔でいきいきと作業していました。

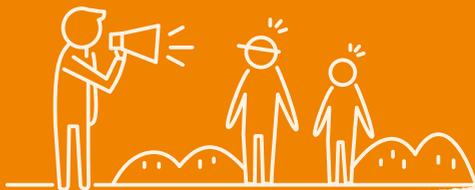
初めてお会いする方も  
ご近所の方も一緒に  
楽しくこんにやく作りを  
することができました!



3) こんにやく作り  
4) 施設内(調理台)  
5) 多目的施設「みのりハウス」  
6) みそ加工講習会

\*みのりハウスとは…講座や研修会ができる多目的のほかに、調理実習室やみそ加工室を備えた施設です。

# 京都府



## 1 農業の魅力を消費者と共有する活動を実施

担い手農家17名と一般公募した消費者15名による農業理解活動を開催しました。イベントでは6班に分かれて京野菜や農業に関するクイズに挑戦し、交流のきっかけを作りました。

さらに担い手農家が農業の魅力を紹介し、昼食のバーベキューでは担い手農家が丹精込めて栽培した農産物を参加者全員で味わいました。

JA職員と担い手農家が一体となり、消費者に地域農業の魅力を発信し、交流を深めることができました。



1



2



3

夏野菜も美味しい、ライブも楽しくてとても盛り上がりました!

- 1・2) JA京都中央管内担い手農家が自ら丹精込めて栽培した持ち込み農産物によるBBQ  
3・4) JA京都中央職員によるミニライブ



4



5

## 2 「夏の大感謝祭」を通じて地域農業を応援

「夏の大感謝祭」会場には夏野菜大抽選会や農産物即売、人気キャラクターのショーなど、さまざまなブースを設け、親子連れなど約3万人の来場者を記録し、大いに盛り上がりました。

今回はイベントの趣旨に賛同された京都水族館、京都学園大学や園部町森林組合など普段は交流のない他業種からも参加がありました。

こうして新たな発想やアイデアを取り入れ、地域で一体となって、農業や社会のさらなる発展につなげていきます。

- 5) ステージイベントが行われている芝生広場  
6・7) JA京都市各支部出展ブースにおける即売



6



7

# 大阪府



野菜や農家に興味を持って取り組みました!



## 1 楽しさや難しさを体験して地域農業を理解する

プランター実習や調理実習をして、児童が自ら育てた野菜を食べる体験型プログラムを実施しました。

生産者による出前授業では、児童たちがすすんで質問をしたりと、農業への高い関心がうかがえました。栽培する楽しさや難しさを体験して、苦手だった野菜を食べられるようになった児童も多く、食育活動の大切さを実感しました。



- 1) 体験型プログラム「プランター実習」
- 2) 「プランター実習」で実際に収穫した野菜
- 3) 自分たちで育てた野菜を使った調理実習
- 4) 生産者による授業

## 2 目指すのは、人工光栽培のトレーナー

都市型農業の未来の形として、JAの敷地内に人工光型の栽培コンテナを設置しました。

人工光型の栽培コンテナは、細菌の侵入を防ぐために関係者以外立ち入り禁止というのが一般的ですが、准組合員にも新たな農業を体験してもらう場として特別に公開しました。また、人工光栽培の導入を検討している法人や個人の研修施設としても、当コンテナを活用していく予定です。いずれは、人工光栽培のトレーナーとなるべく日々実験栽培に取り組んでいます。

- 5) 実際に栽培を体験している准組合員
- 6・7) 人工光による栽培



5

非常に面白い体験ができました! 土を使わない農業の方法があるとは、感心させられました。

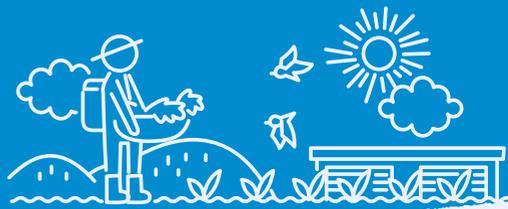


6



7

# 兵庫県



1

- 1) 寄贈後、初めての試運転
- 2) 農機具贈呈式



2

## 1 最新設備で未来を担う若手をサポート

農業大学校・農業高等学校に実習用の農機具・設備を寄贈しました。

最新機器を導入することで、授業内容の高度化や、学力・技術の向上を目指しています。

また、寄贈したトラクターによって多くの学生が実習可能となり、ほとんどの学生が免許も取得することができました。

今後も次代の農業を担い、農業の振興に指導的役割を果たす人材の育成に協力していきます。

## 2 ラジオ、テレビ番組を制作して、地域の特産物の魅力をお届け

生産者やJAの取り組みにスポットをあてたレギュラー番組がなかったため、ラジオ番組とテレビ番組を制作しました。番組では、県内各地のJAを訪問し、農業に携わる方へのインタビューや収穫体験、直売所の取材を通じた、地域ならではの情報を住民へお届けしました。

番組で登場したJA特産物が当たるリスナープレゼントでは、1年間で3,160通もの応募をいただき、多くの方に特産物を知ってもらうことができました。



3

生産者の要望や取り組みを多くの方に知っていただく良い機会となりました。



4



5



6

- 3) パーソナリティが突撃取材
- 4) ラジオ、テレビ番組ポスター
- 5) 美味しいものを探して直売所探検
- 6) 収穫体験

# 奈良県



1

## 1 あぐりスクールを通じて農業をより身近に

小学1年生～6年生のキッズクラブ会員、計175名を対象に年間継続型のあぐりスクール(農業体験学校)を開校し、田植えやトウモロコシの植付・収穫などを体験してもらいました。

普段は経験することがない農業に対して、どろんこになりながらも目をキラキラと輝かせて取り組む子どもたちの姿を見て、農業の魅力を再確認しました。



2



3



4

いろいろな人と交流でき、新しいお友達も増えました!

- 1) トウモロコシの植付体験を行った参加者
- 2) 玉ねぎの収穫体験
- 3) みそ作り体験
- 4) あぐりスクール開校式



5

## 2 女性大学\*1をきっかけに、フレッシュミズ\*2が組織化

次世代を担う女性リーダーの育成と、JA女性組織の活性化を目的とした女性大学の活動を支援しました。

平成29年度は女子大生を含む75名が入学しており、1年間で7回の講義を実施しました。

主な活動は、野菜の植付・収穫体験、地元野菜を使った料理教室、お掃除教室などです。女性大学がひとつのきっかけとなって、平成29年度に未設立の4地区でフレッシュミズ(フレミズ)組織も発足しました。

これにより、JAならけん全6地区でフレミズが組織化されました。

- 5) 冬野菜の植付体験
- 6) JAならけん女性大学ロゴマーク
- 7) 冬野菜の収穫体験
- 8) ダスキン講師による「お掃除教室」

\*1 女性大学とは…生活や趣味等に関する学びを通じた地域での仲間づくりを目的とした集いのことです。  
\*2 フレッシュミズとは…JAをよりどころに、食や農業に関心のある若い女性(45歳くらいまで)が集まった組織です。



7



8



6

# 和歌山県



梅が苦手だったけど  
自分で作った梅ジュースは  
美味しく飲めました!



## 1 食育活動を通じて 地元農産物を県外に広める

地元農産物「紀州南高梅」の魅力を広く伝えるため、県内2JAは2自治体と構成する梅食育普及促進協議会の活動として、全国各地の小学校などで梅の食育出前授業を行いました。

梅の文化や効能について学んだ後、一人ひとりが梅の加工体験を行い、参加児童からは「ジュース作りが楽しかったです」、「梅が体にいいことを家族に教えてあげたいです」という感想が届きました。



1・2・3) 梅の食育出前授業

## 2 おそろいのベストで 事故防止活動を応援

県内全8JAでは、和歌山県が平成18年度から実施している子どもたちの登下校を見守る「わかやまこどもセーフティネット」を応援するため、活動中に着用するカラーベストとキャップを県内各市町村に計5,000セット贈呈しました。

県内の市町村からは「統一したベストとキャップをボランティアや保護者が着用することで、地域が一体となって安全確保に取り組みます」と感謝のお言葉をいただきました。



明るいオレンジ色が  
遠くから見ても  
目立ちます!

4) カラーベストとキャップ

5) ボランティアの方によるカラーベストとキャップを着用した街頭での活動